

多様な人材育成に関する万国津梁会議（第4回） 会議資料

2020年11月13日（金） 15:00-17:00

◆◆会次第◆◆

- | | |
|---------------|---|
| <15:00-15:05> | 1 開会挨拶
委員長 宮平 栄治 |
| <15:05-16:57> | 2 審議事項
(1) 取りまとめ内容（案） その2 |
| <16:57-17:00> | 3 報告事項
(1) 最終提言 骨子（目次） 案と今後の進め方 |

審議事項（1）取りまとめ内容（案）

【第2回会議から現在までの振り返り】

- 第2回会議（9月7日開催）後、委員から挙げた意見を整理
- 宮平委員長と相談の上、委員から挙げた意見を「課題」、「イメージ」、「モデル（先進事例）」および「解決策」としてとりまとめ
 - ① 産業振興を担う人材の育成：16の課題
 - ② 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進：21の課題
 - ③ 地域社会を支える人材の育成：21の課題
- 第3回会議（10月28日開催）
 - ① 産業振興を担う人材の育成：16の課題 →その9まで確認。残りは第3回会議で検討
 - ② 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進：21の課題 →第3回会議で検討
 - ③ 地域社会を支える人材の育成：21の課題 →第3回会議で検討

→課題設定数が多く個別の検証に時間を要することから、事務局にて宮平委員長ならびに平良副委員長の意見も伺いながら、課題の統合を実施した（スライド4以降）。なお、「※」は事務局により新たに加えた事例となる。

→（提案）11月13日に改めてご意見をいただき、引き続き資料提供等をお願いするとともに、必要に応じて委員から個別に意見聴取を行ないたい。

①産業振興を担う人材の育成に関する意見

①産業振興を担う人材の育成に関する意見（非認知能力の育成）

【現状・課題】

- 2020年以降の教育改革にて、非認知能力（＝学びに向かう力人間性など）が柱の一つとなっている
- 学校教育だけではなく地域社会における芸能や祭りなどを通じて育まれていくとも言われている
- 企業組織においても仮説思考力、課題設定力などという形で重要性が認識されている

解決策・推進策

<●●●>

（委員の皆様より意見をいただく）

<●●●>

（委員の皆様より意見をいただく）

モデル（事例）

<経済産業省※>

「社会人基礎力」（≡非認知能力）を提唱しており、ライフステージ毎に「問い」を通して、社会人基礎力を意識する機会が有用ではないかと示唆

<小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説※>

「・・・どのような未来を創るのか、目的を自ら考える力を育成・・・」することが重要であると認識されている。

①産業振興を担う人材の育成に関する意見（社会インフラとしての福祉を再評価）

【現状・課題】

- 福祉、介護業界では、コロナ禍以前から人材が不足
- コロナ禍によって、介護や福祉の現場に対するマイナスイメージが広がるのではないのかという懸念
- 県民が経済活動に従事するために福祉・保育は欠かせない社会インフラ
- 資格を取得可能な福祉系大学・専門学校、福祉学科の高校への進学者が少なく、将来的な人員確保のための取り組みが必要
- 介護ロボット導入などで、従事者の負担軽減が想定されるが、普及に時間がかかる可能性。
- ICTの活用による利用者情報管理の効率化の可能性

解決策

<教育現場との連携&情報発信>

- 教育現場と連携した介護・福祉業界の魅力を伝える取り組み
- 就職希望者に業界のいい面悪い面も含めて赤裸々に伝えていくための工夫

<従事者のキャリアパス&待遇改善>

- 介護士など、待遇改善
- 沖縄県独自のキャリアパス制度をつくる。

モデル（事例）

<沖縄県福祉人材研修センター>

- 就職希望者向けの「就職ガイダンス」、「福祉の職場見学ツアー」、「福祉の職場説明・面接会」などを実施
- 小・中学校へ第一線の福祉従事者を講師派遣し「福祉のお仕事入門教室」を実施して仕事の魅力を発信
- 介護福祉士や社会福祉士、保育士の資格取得費用を貸付し、一定期間、その職種に従事すれば返済が免除となる制度を運営

<島根県海士町>

- 介護職員採用決定者への移住支援金の給付

①産業振興を担う人材の育成に関する意見（ITリテラシーを有した高度な人材）

【現状・課題】

- 一定程度のITリテラシーが最低限の能力として求められる社会へ変化してきている。
- 離島地域などでは、パソコンを扱うための基本的スキルを有していない人々もいる。
- インターネット環境の整備が遅れている地域、学校、家庭があり、格差が存在している。
- インターネット環境整備には貧困の問題も影響している。
- ヒトとコンピューターが担うべき業務を区別したうえで、ヒトの能力を高めしていく取り組みが必要。
- 教育機関で育成する人材と企業が求めている人材をすり合わせ、ミスマッチを減らす取り組み。

解決策・推進策

<教育現場におけるIT環境の整備>

- IT環境の平等な整備が必要

<企業の取り組み>

- 企業や社会が学びなおすことの意義を認め、勤務体制への配慮や、資格を人事や手当等に反映する
- 人財育成を担う各機関の連携によって、切れ目のない施策として実現していく

<企業が欲している人材ニーズと学校側の調整>

- 県内の人材ニーズを共有する場が必要
- 業界と教育機関の連携

モデル（事例）

<GIGAスクール構想>

- 各生徒1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、個別最適化した教育環境の整備

<スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール>

- 高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成することを目的とした文科省の事業。

<●●●>

（委員から意見をいただく）

①産業振興を担う人材の育成に関する意見（伝統文化活動におけるITとの連携・棲み分け）

【現状・課題】

- ITを利用することで、会場にいなくとも芸能を鑑賞することが可能であり、娯楽や癒しとして身近に利用できる
- 映像配信だけでなく、ライブ（人と人との息遣い、聴衆と演じ手、演者が一緒になって作り上げていく）を理解した舞台芸能・伝統芸能の構築（再構築？）
- 継承にあっては、伝統文化・芸能は映像からのコピーではなく、精神の繋がりに重きが置かれている
- 沖縄の伝統文化・芸能を通して鑑賞する楽しさ、魅力を知り、自身（沖縄県民）としてのアイデンティティーや独自性を知り、県外で活躍する。

解決策・推進策

<後継者と聴衆層の拡大>

- 後継者と同時に伝統文化・芸能を楽しんでもらえる人々の拡大が必要となっている

<アイデンティティーの拠り所として位置づけ>

- 伝統芸能は見て・聞いて楽しむことのほかに、個々人のルーツでもあると認識してもらう

モデル（事例）

<兵庫県西宮市（一財）日本伝統芸術文化財団>

- 新型コロナ感染防止策をとりながら能の公演を開催し、国内外に動画を有料ライブ配信（西宮・伝統芸能の夕べ 西宮えびす神社・西宮能楽堂）

<国立劇場おきなわ>

- 鑑賞プログラム ⇒若者等への理解促進、担い手の発掘

<肝高の阿麻和利>

- 沖縄県うるま市の中高校生が出演している現代版組踊であり、もともとは、ふるさと再発見のための地域おこし。

<沖縄尚学における空手の授業>

- 高校卒業までに黒帯を取得する

②学校教育と社会教育の総合的・横断的な 取組等の推進に関する意見

② 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進に関する意見（自発的な問題意識・興味）

【現状・課題】

- 子どもたちは県内の社会課題（観光、福祉など）について理解しているものの、当事者意識が低いと感じる
- 子どもたちが興味をもった課題について自発的に学ぶことが難しい状況がある
- 異文化交流（ちゃんぷるー文化）などを通じてどのような社会課題があるのかを伝える場があってもいいのではないか
- 企業においても自分の意志で選択し、自分のラベルを自分で選んでいくことが、求められている

解決策・推進策

<子どもたちの興味関心を深める>

- 子どもたちが持つ「人の役に立ちたい」などの基本的な欲求を育てていける仕組みがあるとよい
- 一線で活躍している人物を教育現場に招聘して興味関心を深める

<自分の意志でキャリアパスを描く思考>

- 企業においても自分の意志で選択し、自分のラベルを自分で選んでいくこと

モデル（事例）

<総合学科制度（沖縄水産高校）※>

- 国語などの普通教科、情報や福祉などの専門教科を生徒が選択し、生徒自ら時間割をつくる制度。

<東京都墨田区教育委員会：学校支援ネットワーク事業>

- 教育委員会事務局内に「学校支援ネットワーク実行委員会」を組織し、その下に「学校支援ネットワーク本部」を設置して、学校と地域の人材（住民・企業・学生等）をつなぐ「地域コーディネーター」を配置し、外部講師との調整などを行う

② 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進に関する意見（教育・育成でのITの活用）

【現状・課題】

- GIGAスクール構想など、教育現場におけるIT利用が盛んになってきている
- コロナ禍において離島地域でもインターネット環境が整備されてきている
- ITリテラシーの地域間格差、学校間格差はまだ残っている
- ビジネスアナリストのニーズが高まってきている
- 将来的にBPO事業における一部業務の機械化が進む半面、IT技術の進歩に伴い専門性が民主化されてきている

解決策・推進策

<●●●>

（委員の皆様より意見をいただく）

<●●●>

（委員の皆様より意見をいただく）

モデル（事例）

<GIGAスクール構想>

- 各生徒1台の端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的整備し、個別最適化した教育環境の整備

<●●●>

（委員の皆様より意見をいただく）

③ 地域社会を支える人材の育成に関する意見

③地域社会を支える人材の育成に関する意見（域内外との連携を通じた新しい教育）

【現状・課題】

- コロナ禍において離島地域でもインターネット環境が整備されてきている
- 15歳以下の人口が日本一
- 離島地域では人口減少によって人材不足がおきており、地域のイベントなどを負担と感ずるようになっている
- 離島地域では人材数の不足とともにスキルが不足している
- 人材が一時的に流失し、域外で知見を得て帰ってくることは地域にとって前向きに働く
- 若いうちに地域の人とかかわることによって、離島で育ったことの肯定感が養われる⇒シビックプライドの醸成
- 伝統芸能が地域への愛着を深めるツール

解決策・推進策

<離島・僻地における新しい教育>

- インターネットの普及により、離島にいながらも高等教育を受けられるかもしれない
- 外部との交流や小中学校のことから地元について学ぶことによって、自分が住んでいる地域の魅力を再確認する

<地域への愛着（Civic Pride）の醸成>

- 地域を知ることによって、人材が一度域外に出ても戻ってくる流れを作ることができるのではないか

モデル（事例）

<鹿児島県長島町ぶり奨学金>

- 卒業後に長島町に定住すれば、奨学ローンの返済を町が補填する制度

<広島県大崎上島>

- 学校と商工会が連携して郷土を知り、地域の中で活躍している人材と交流を深めるプログラムを実施中

<南城市：ふるさと伝統芸能まつり>

- 南城市立大里中学校体育館で開催され、生徒が夏休み期間中に地域の方々から習った伝統芸能などを披露。（南城市WEBサイト）

③地域社会を支える人材の育成に関する意見（住民参加のあり方の再評価）

【現状・課題】

- 域内からの人材流失によって、民生委員や児童委員のなり手が不足している
- 地域のイベントでの踊り手なども不足しており、近隣の地域から人を借りて実施する地域も出てきている

解決策・推進策

<住民参加の再評価>

- ボランティアはあくまで地域をより豊かにする存在であり、大きな責任を担うことができるわけではないと認識する
- 新たな担い手となる人々への働きかけ
- ボランティア活動への理解と活動に参加する「出会いの場」の創出。
- 「ボランティアをしたい！」と考える県民が活動に参加しやすい環境づくり。
- ボランティアセンターの機能強化を図ることで、地域を支えるボランティアの育成。

<住民参加の方法を模索>

- 住民参加を促進するキーマン「コミュニティソーシャルワーカー」の育成

モデル（事例）

<島根県雲南市における行事の棚卸し※>

- 人口減少、高齢化が進む自治体で年間行事の棚卸しと組織の棚卸しを行い、行事を統合して効率化するなどの取り組みを実施

<コミュニケーションソーシャルワーク事業（浦添市）>

- 浦添市社協市内5つの中学校区ごとに拠点を設け、事業を推進。
- 住民参加による地域福祉の推進
- 各自治会に「地域相談窓口」を設置して住民からの相談に住民が対応
- キーマンとなるのは「コミュニティソーシャルワーカー」という職員

各重要課題の位置づけ（イメージ）

【今後の進め方（案）】

発展的な取り組み

よりよい将来のために必要な取り組み

自発的な問題意識・興味

非認知能力の育成

ITリテラシーを有した高度な人材

域内外との連携を通じた新しい教育

伝統文化活動におけるITとの連携・棲み分け

教育・育成でのITの活用

住民参加のあり方の再評価

社会インフラとしての福祉を再評価

課題解決的取り組み

現在の課題を解決していくために必要な取り組み

報告事項（1）最終提言 骨子（目次）案と今後の進め方

【骨子（目次）案】

1. 沖縄における多様な人材に関する提言

1-1. 産業振興を担う人材の育成

- (1) 非認知能力の育成
- (2) 社会インフラとしての福祉を再評価
- (3) ITリテラシーを有した高度な人材
- (4) 伝統文化活動におけるITとの連携・棲み分け

1-2. 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進

- (1) 自発的な問題意識・興味
- (2) 教育・育成でのITの活用

1-3. 地域を支える人材の育成

- (1) 域内外との連携を通じた新しい教育
- (2) 住民参加のあり方の再評価

2. 沖縄の現状と課題

2-1. 沖縄21世紀ビジョン基本計画等総点検報告書に見られる現状と課題

2-2. 統計資料の整理 ※進学率、就職率、産業別労働生産性 等

2-3. 委員からの意見 ※上記1に至った背景等の整理

2-4. アフターコロナ

3. 先進事例の紹介

3-1. 産業振興を担う人材の育成

3-2. 学校教育と社会教育の総合的・横断的な取組等の推進

3-3. 地域を支える人材の育成

- 最初に結論部分（提言）を持ってくる
- 実現可能な提言にするため、より具体的に、分かりやすい内容とする！

今後の審議次第で更なる統合や縮小も考える

- 提言に至った背景的な内容を記載
- 近年問われているEBPM（エビデンスベースの政策策定）に基づいて作り込む

報告事項（1）最終提言 骨子（目次）案と今後の進め方

【今後の進め方（案）】

11月13日（金）
万国津梁会議（第4回）

(1) 取りまとめ内容（案） その2

- 会議で挙げた内容のとりまとめ → 委員へ送信
- 委員から、さらなる情報提供
- 必要に応じて、個別で意見聴取（オンライン）
- 委員からの情報提供、意見を踏まえて加筆・修正 → 委員へ送信

2021年1～2月
万国津梁会議（第5回）

※12月は日程調整が合わないため、再度調整
(1) 最終提言の確認
(2) その他

- 最終調整

2～3月
最終提言書の完成

- 企画調整課（→知事）へ提出
- 知事への手交式・意見交換の日程調整 等